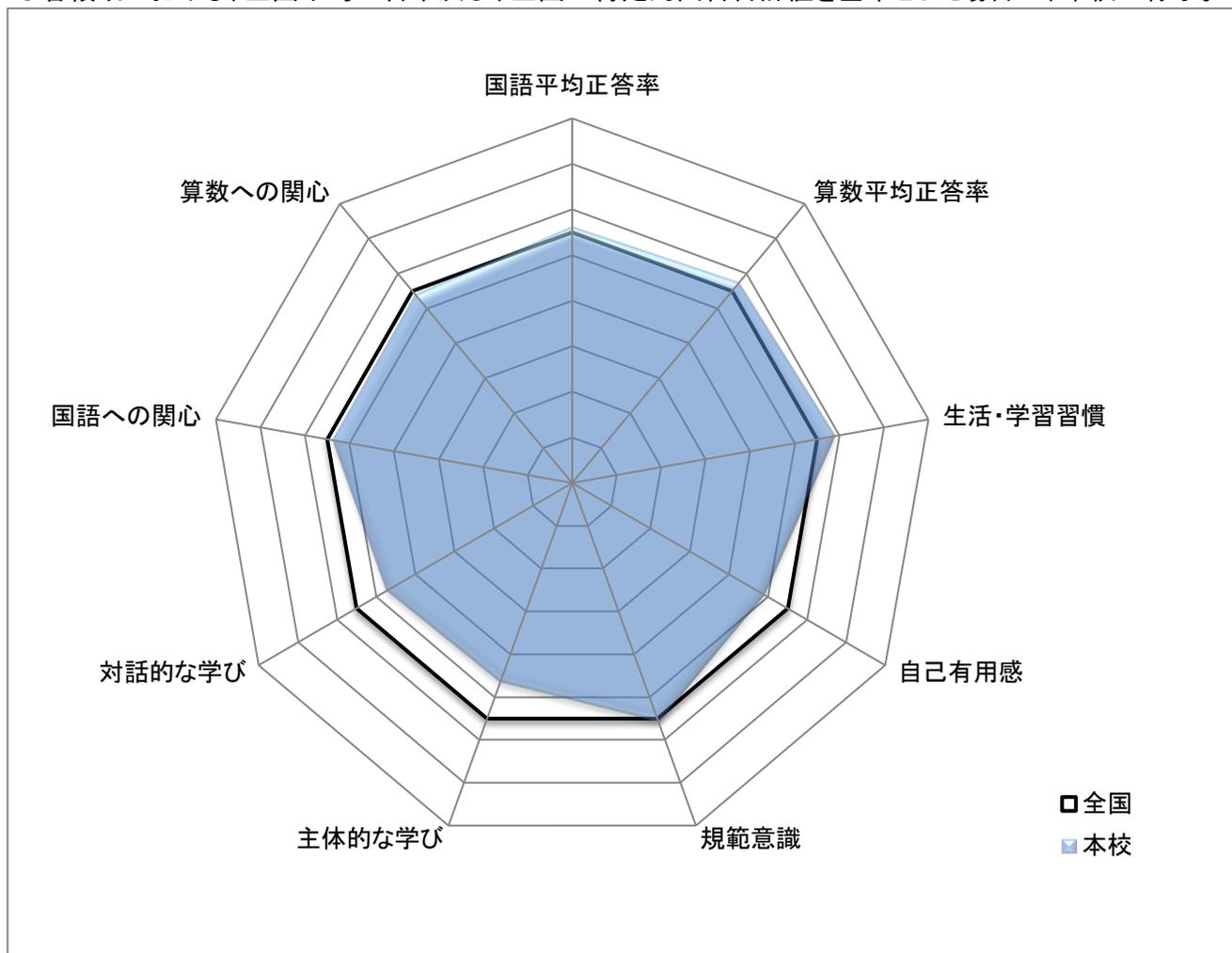


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語、算数とも平均正答率を全国と比べると本校は上回っている。算数の意識調査から、「簡単に計算することができないかを考えてから計算している」「テストやドリルで間違えた時は、似た問題を選んで特に練習している」「前に同じような問題をやったことがあるかや、今まで学習した問題とどこが違うのかを考えている」この3つの項目の数値が高い学習ほど正答率が高くなっている。このことから自己分析、問題分析をする力の育成が必要である。

《授業改善のポイント》

自分で学習の振り返りを行い、課題を見つけたり、解決方法を考えたりして、主体的に取り組めるような授業実践を考えていく。さらに、文章を読み解き、内容を理解する力を育成し、数値や資料を比較関連付けて読み取る力、意図や背景、理由を理解、解釈して推論し、解決する力を養う必要がある。そのために次のポイントを重点に授業改善に取り組む。  
 ・問題解決の「計画」から「話し合い」までを主体的、対話的に行い、数学的な見方や考え方を深められるように指導計画を立てる。  
 ・考えを組み立て、発表する機会を増やしていく流れを授業の中で作っていく。  
 ・考えをはっきり示すことができるように、低学年から発表の仕方を具体的な型で学んでいくようにする。

《チャートの特徴》

生活・学習習慣、規範意識については、全国平均を上回り、国語や算数への教科の関心も全国平均とほぼ近い数値である。これらの項目に児童が意識を持ち続けられるように家庭にも働きかけていく。主体的な学び、対話的な学びについては授業改善を通して数値の向上を目指す。主体的に学習に取り組み、自分の考えを発表する機会を増やし、その中から対話に結び付けるような取組を充実させることによって、自己有用感を高めていくようにする。

《家庭・地域への働きかけ》

主体的、計画的に学習に取り組むことができるように、家庭学習の流れを作り、取り組んでいく。特に「考える、調べる、まとめる」など学習における思考・表現の力を家庭学習でも養うために低中高学年の発達段階に応じて課題を設定し、学び方を身に付けるようにする。